

ほほえみ 第88号



3月になり、少し寒さも緩んできたかに思えますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。先月は、インフルエンザBに罹患し、感染対策上の理由で病休をいただくこととなり、代診をお願いすることとなりました。多くの方にご迷惑をおかけすることとなり、申し訳ありませんでした。ワクチンも接種し、外にも原則的にあまり出かけないのですが、子供からうつったようです。インフルエンザも終盤ですが、A型にかからないようにしなくてはと思っています。

治療を変えたくない・・・保有効果

化学療法に関しては、治療効果や副作用の状況で治療が変わることが往々にしてあります。その際に、「効果は出ていないのは判ったが、治療を変更したくない」といった反応をされる方がいます。明らかに効果が出ていないが、治療はそのまま行いたいというのは、かなり矛盾したことなので、何度もご説明することがありますね。

なぜ、人は治療変更がそれほどまでに嫌なのか、上手く説明できない状況でしたが、保有効果という現象を知るようになって理解が進みました。保有効果は、2017年にノーベル経済学賞を受賞したリチャード・セイラー博士が見出した現象です。彼が、この現象を見出したきっかけが面白いのです。

彼の先輩にあたるリチャード・ロゼットという経済学者がワインのコレクターだったのですが、ストックしたワインを流通価格以上で売ってほしいといっても、人には売らないのです。ヴィンテージワインの流通価格は定まっているので、その値段以上出す人があれば売ろうが経済学者的なのですが（仮に同じワインが必要なら、売却代金で同じワインを買い、手元にお金が残りますね）、経済学者なのにそうしない。一体、どういうことなんだ……、という訳です。

ワインに限らず、人は一旦手にしたものを手放さない。明らかに、手放すほうが合理的でもそうしないのです。最も合理的な人種といわれる経済学者が手放さないのですから、一般に広く認められる現象だとわかります。流通の実験のために、マグカップを流通させてみると、本来決まったマグカップの値段（真の価値）より、高く売れる機会があっても、手放さない現象が再現されます。これが保有効果です。普通は、人手にあるマグカップなので、新品より値が下がるのが普通ですが、相応に高く値をつけても人は手放しません。

この実験を追試することは何度も行われ、その度にマグカップが使われているそうです。実験に使うのにお手ごろな価格で、手に触れる、口に触れるものなので、保有効果が出やすいのかもしれないですね。『小学』では、

父没して父の書を読むこと能はざるは、手澤存するゆえにしかり。母没して杯圈飲むこと能はざるは、口澤の気存するゆえにしかりと。

といいます。東洋的には、『気』を感じて使わないというのですが、保有効果は自分のものだから手放さないのですね。

こうしてみると、化学療法でも、効果が出なくなって価値がさがった状況でも、その治療を続けたいというのは、一旦、馴染んだ治療を手放さない保有効果で説明できるでしょう。とはいえ、理にはかなっていない現象なので、効果のない治療を、副作用の代償をはらって行うということは、やはりしないものだと思います。保有効果ということを理解していただくことが重要です。



平昌オリンピック

先月9日から25日まで、平昌オリンピックが行われました。メダル予想が14個だったようですが、それに迫る13個のメダル獲得で、金メダルも4と、日本選手の活躍が目立ちました。

怪我からの復帰戦で金メダルを獲得した羽生選手や、粘り強く銅メダルを獲得した女子カーリングチームなどが特に印象に残っています。

今回は、時差が小さかったので、夜中に応援することは少なかったのですが、結構、遅めの時間の競技もあって、後からスマホで結果を見ることもありました。テレビよりスマホの時代なのですね。



<http://number.bunshun.jp/articles/-/830046>

春を待つ

3月となると、雪がたくさん残っていても、気分は春で、今年はいつごろ何の花が咲くのかと心待ちにしています。我が家で、一番最初に咲くのはジュンベリーで、次はミツバツツジ、チューリップやブルモナリアが咲いて、その後は、バラの季節です。

昨年はジュンベリーの開花は4月21日でしたが、今年は雪が多いので、遅れるかもしれませんね。植えつけてから年を追うごとに花は増えているのですが、去年は実は収穫できなかったのですが、今年は、多少なりとも収穫してみたいと思っています。



昨年のジュンベリーの開花

MEMO

3月のがん化学療法科の予定

3月3日	ひな祭り
3月6日	診療応援(平出先生)
3月13日	診療応援(工藤先生)
3月20日	診療応援(平出先生)
3月21日	春分の日
3月27日	診療応援(工藤先生)

